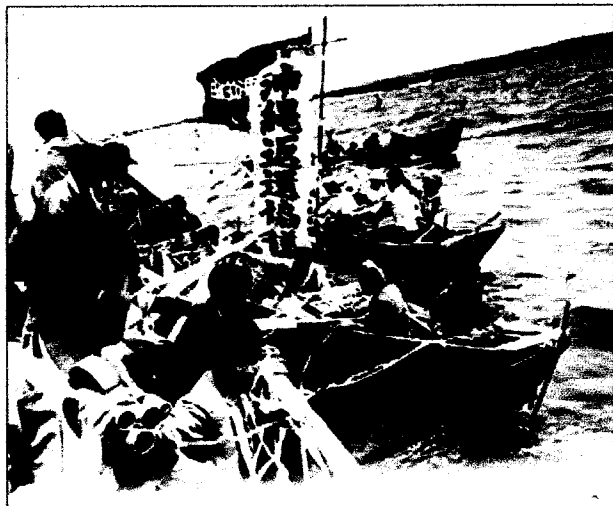


主権回復の日＝屈辱の日

4月28日はかつて「沖縄デー」と呼ばれていました。1952年4月28日、日本と米国との「サンフランシスコ講和条約」によって、日本の主権は回復されました。しかし沖縄は、日本から切り離され、米軍統治が継続。沖縄にとっては「屈辱の日」となったのです。

沖縄戦で住民の4分の1が亡くなるという多大な犠牲を沖縄に強いた日本は、戦後の占領下においても、「国体(天皇制)護持(延命)」と引き換えに、沖縄を米軍に差し出したのです。その象徴である「4・28」を、沖縄県外に住む私たちは忘れてはなりません。1972年に沖縄は「本土復帰」しましたが、48年経つ今も、国土面積の0.6%しかない沖縄に在日米軍基地の約7割が集中しています。さらに安倍政権は、沖縄の民意を踏みにじり、辺野古への新基地建設を強行していますが、抵抗が続いています。



1960年代、沖縄では4月28日、日本と分断された北緯27度線上で、毎年のように復帰をめざす海上大会が開かれた

#Remember0428 4月28日は何の日か知っていますか？

「不都合な事実」と向き合い、忘れない

都合の悪い歴史は忘れる、あるいは歪曲するという歴史修正主義が、日本に蔓延しています。沖縄においても「沖縄戦で住民が集団自決したことに、日本軍は関与していない」「新基地建設は沖縄の負担軽減のため」など、政府が「不都合な事実」をねじ曲げてきました。

4月21日には、コロナ禍のさなか、政府が沖縄県に、辺野古の工事を進めるための設計変更の許可申請を行いました。緊急事態宣言が出るなか、沖縄県にさらなる負担をかける手口は、命と民主主義の軽視であり、沖縄差別にほかなりません。48年前の「屈辱の日」は、残念ながら今も続いています。

新型コロナの影響下にある今年の「4・28」は、人々の関心が例年以上に遠のくことでしょう。学んだり、集ったりすることも、ままなりません。こんなときだからこそ「4・28」の意味を振り返り、私たちが沖縄に犠牲を押し付け続けているという事実と向き合い、忘れないことが大切ではないでしょうか。



1969年4月、沖縄島北端の辺戸岬から那覇まで20日かけて「祖国復帰要求大行進」が行われ、「核も基地もない、完全復帰」を訴えた

沖縄への偏見をあおる放送をゆるさない市民有志

連絡先: nonewsjoshi@gmail.com Twitter @nonewsjoshi

#Remember0428

4月28日は何の日か知っていますか？

追悼

2016年4月28日、沖縄県うるま市の20歳の女性が自宅近くをウォーキング中、行方不明になりました。元米兵に強姦目的で殴られ、ナイフで刺され、雑木林に遺棄されたのです。遺体が発見されたのは同年5月19日のことでした。

基地あるがゆえの性暴力被害

沖縄では基地あるがゆえの性暴力被害が繰り返されています。もし、あなたの地域で同じことが起きたらと想像してみてください。彼女は「あなた」だったかもしれませんが、でも、そう感じる「本土」(沖縄県以外の日本)の人は少ないでしょう。在日米軍基地の7割が沖縄に集中しているため、同じような事件が身近で起こる可能性が低いからです。

沖縄差別から逃れられない私たち

今、沖縄に駐留する米軍の約6割を占める「海兵隊」は、かつて静岡や岐阜に駐留していましたが、戦後の反基地闘争の結果、沖縄に移ってきたのです。沖縄でも反基地闘争が繰り広げられましたが、米軍統治下のため、海兵隊の移転を拒否できませんでした。私たち「本土」の人は、自分の意思でなくても沖縄に基地と基地被害を押し付けているのです。この状況を変えようとしないうちに、私たちは沖縄差別の加担者であることから逃れられません。「彼女の死は、自分にも責任がある」。沖縄では広く共有されているこの自覚を、「本土」の私たちこそ持たなければならぬと考えます。

できること

4年前に亡くなった20歳の女性の生涯を思い、追悼してください。昨年4月にも米兵によって沖縄の女性が殺害されました。沖縄では戦中から戦後までずっと軍隊による性暴力被害が続いていることに思いをめぐらせ、追悼し、状況を変えるために、それぞれの一歩を踏み出してください。

■沖縄への偏見をあおる放送をゆるさない市民有志■

沖縄の米軍基地建設反対運動を誹謗中傷したテレビ番組「ニュース女子」問題に取り組む市民の集まりです。自分たちも沖縄差別の当事者であることを自覚し、状況を変えるために街宣活動なども行なっています。

連絡先: nonewsjyoshi@gmail.com Twitter @nonewsjyoshi

発行: 2020年4月